



名古屋大学 予防早期医療創成センター 第7回ワークショップ

<http://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/conference20180123/>



【日時】

2018年1月23日（火） 11:00～18:20

【場所】

名古屋大学 東山キャンパス 野依記念学術交流館



主催 名古屋大学予防早期医療創成センター

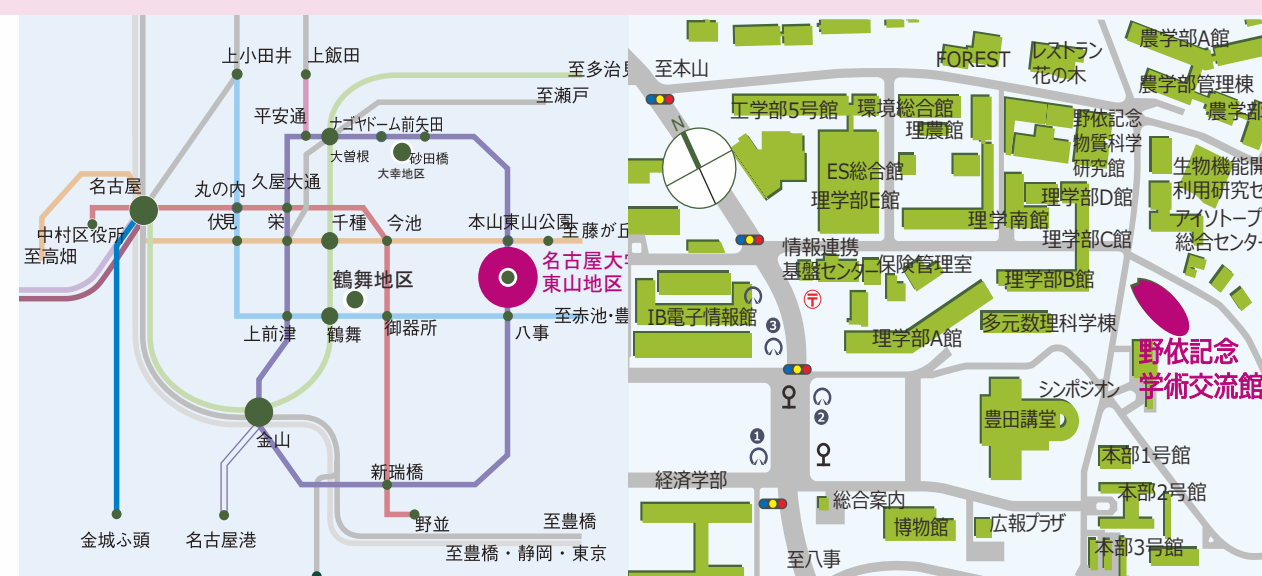
問い合わせ先

名古屋大学 予防早期医療創成センター
URL <http://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/>
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学
ナショナル イノベーション コンプレックス (NIC) 5F
TEL・FAX : (052) 789 - 5499
E-mail: P M E 事務室
kou-kyoten@adm.nagoya-u.ac.jp

【アクセス】

地下鉄名城線
名古屋大学駅
2番出口より
徒歩7分

【申し込み方法】



ネット申し込みをお願い致します：下記URL 又は左記QRコードにアクセスし、必要事項を選択記入の上ご登録下さい。www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/entry/
1)ご所属 2)氏名 3)連絡先 4)昼食要否（軽食実費500円、事前申し込みのみ）
5)意見交換会(会費制3,000円) の参加希望有無

※ 11:00～、18:15～は、2階カンファレンスホール会場にお集まりください

時間		第1会場 カンファレンスホール(2階)	
11:00～ 11:05	挨拶 門松健治 予防早期医療創成センター長 医学系研究科長 教授		
11:05～ 11:45	【招待講演】 脳卒中予防から認知症予防へー久山町研究からのメッセージ 公益社団法人 久山生活習慣病研究所 代表理事 九州大学名誉教授 清原 裕 氏		
11:50～ 12:20	ポスターセッションに関するショート・トーク		
昼食休憩 ※			
時間		1階 回廊	
13:00～ 14:00	ポスターセッション 於： 野依記念学術交流館 1階 回廊		
移動			
時間		第1会場 カンファレンスホール(2階)	第2会場 会議室(1階)
14:00～ 16:00	1-1	早期医療・プレジジョンメディシンの 実現を目指した新しいコホートアプローチ	2-1 AI、ICTのメディカル応用最前線
16:10～ 18:10	1-2	痛みを科学する	2-2 健康寿命延伸のための 社会デザイン
18:15～ 18:20	挨拶 財満 鎮明 名古屋大学理事 副総長 学術研究・産学官連携推進本部長		
18:30～ 20:00	意見交換会 於：野依記念学術交流館 1階		

-1-

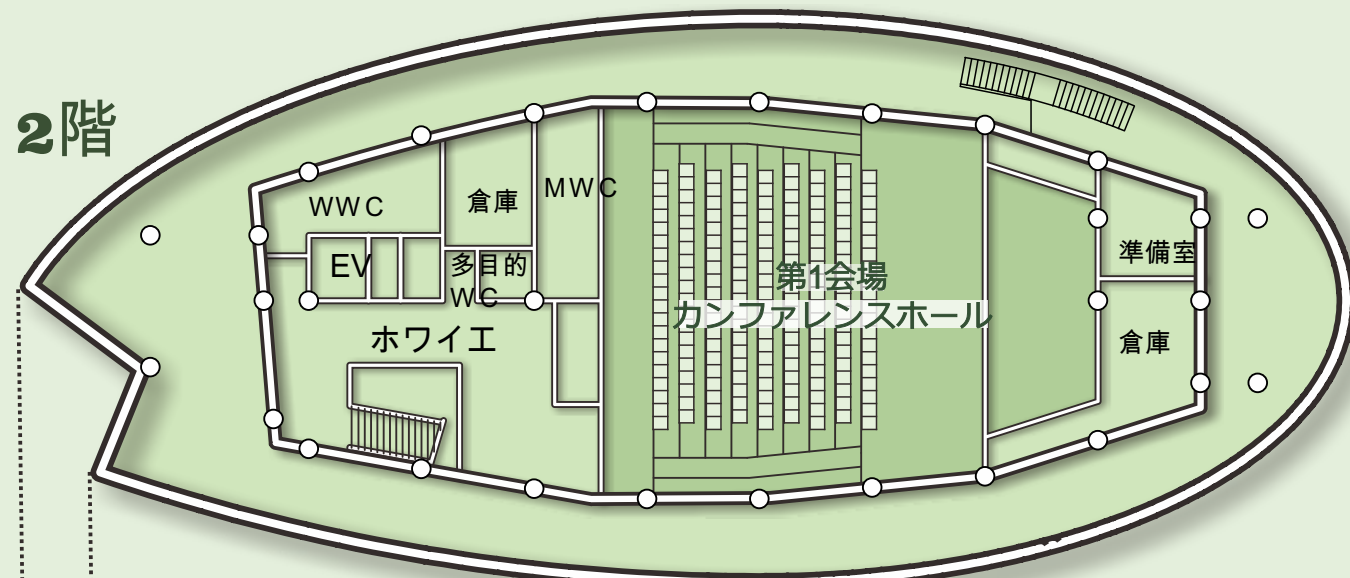
軽食※
意見交換会の
御案内

- 昼休憩時に軽食をご用意致します。ご利用下さい。
【実費】500円
- また、ワークショップ終了後、1階スペースで、意見交換会を行います。
皆様のご参加を心よりお待ちしております。
【時間】18:30～20:00【会費】3,000円
- 準備の都合上、軽食・意見交換会について
事前申し込みをお願いします。
〆切り 1月19日(金)

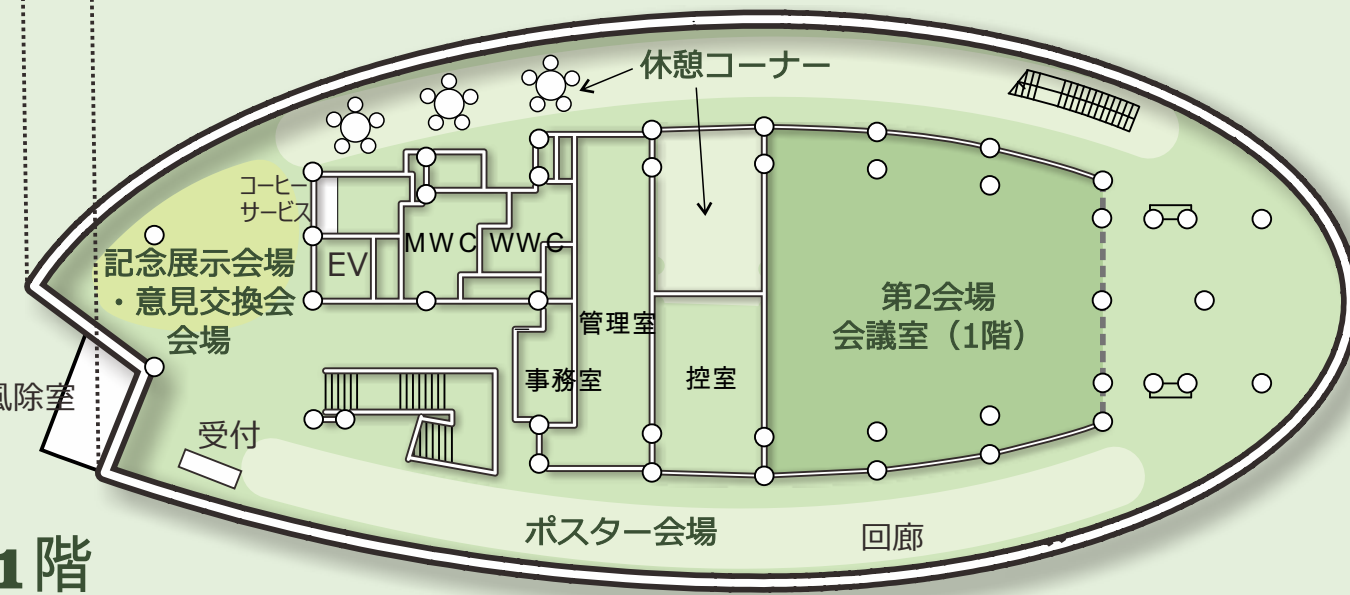


野依記念学術交流館

2階



1階



-2-

11:05～
11:45

脳卒中予防から認知症予防へ
－久山町研究からのメッセージ

公益社団法人 久山生活習慣病研究所
代表理事

九州大学名誉教授

清原 裕 氏

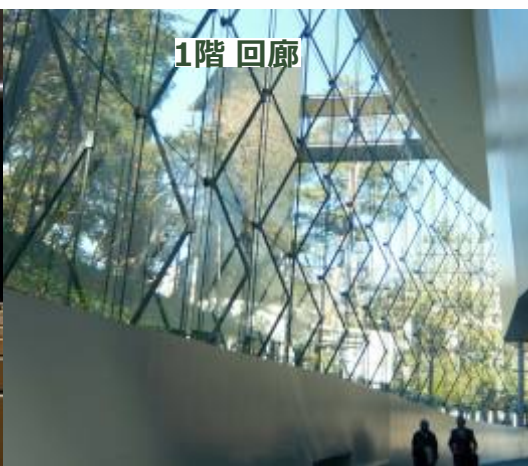
わが国は超高齢社会を迎えるとともに国民の生活習慣が欧米化し、肥満・糖尿病の増加など新たな健康問題が生じている。このような社会環境や生活習慣の変化は、脳卒中や認知症の急増という大きな課題をもたらしている。

本講演では、福岡県久山町において半世紀以上にわたり継続している精度の高い生活習慣病の疫学調査（久山町研究）の理念・概要を紹介し、地域住民における脳卒中・認知症とその要因（危険因子）の実態、予防のあり方について述べる。

カンファレンスホール



1階 回廊

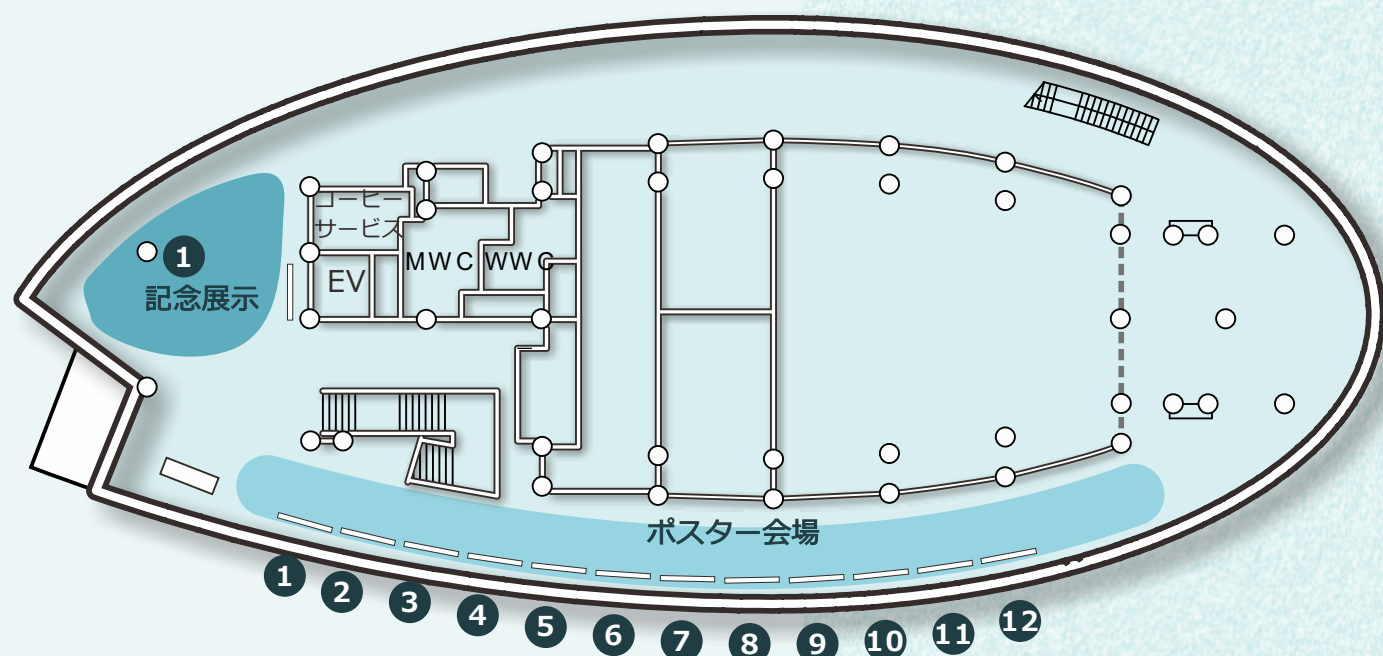


第2会場 1階会議室





■ ポスターセッションレイアウト（1階回廊）



ポスターセッションは13:00から14:00迄行います。コーヒーサービスも併せてご利用下さい。

■ 記念展示：「手のひらに名医・大病院」から10年

No.	タイトル	参画・協力団体
1	予防早期医療創成モデル ～コンセプト創出から実証研究・社会実装へ	名古屋大学 予防早期医療創成センター
I	「手のひらに名医・大病院」 ～拠点形成プログラム：画期的な産学連携	トヨタ自動車、日本ガイシ、富士通、オリンパス 伊藤忠商事、デンソー
II	引き潮のないイノベーションはない ～自主活動「予防早期医療創成モデル」創出	トヨタ自動車、グッドライフデザイン、豊田通商、 ユニー、タニタヘルスリンク
III	「予防早期医療創成モデル」実証研究へ ～総合特区・経産省プロジェクトで「マイページ」実証	トヨタ自動車、グッドライフデザイン、トヨタ自動車 企業年金基金、トヨタ自動車健保組合、 エヌ・エイ・シー、日本システムウェア、松柏会、 東芝、TDK、豊田市、
IV	継続は力なり ～社会実装を目指した多分野産学官連携へ	トヨタ自動車、グッドライフデザイン、トヨタ自動車 企業年金基金、トヨタ自動車健保組合、 エヌ・エイ・シー、日本システムウェア、松柏会、 TDK、ミールケア、エッセンティア



■ ポスターセッション

No.	タイトル	発表者
1	医療分野における IoT、DeepLearning活用	日本システムウェア株式会社
2	ヘルスケアの様々な用途に対応した ウェアラブルセンサ PART- II	TDK株式会社 IoTシステムビジネスユニット
3	フルクトース代謝と肥満・メタボリック 症候群・糖尿病性腎症	1) 名古屋大学大学院医学系研究科腎臓内科 2) 名古屋大学医学部附属病院腎臓内科 道家智仁 ¹ 石本卓嗣 ² 早崎貴洋 ¹ 丸山彰一 ¹
4	ウェアラブル健康モニタリング機器向けSoC－ ApP-Lite Tz1000シリーズの開発	東芝デバイス&ストレージ株式会社
5	腕帯（カフ）の不要な「カフレス」血圧 測定の産学連携開発	名古屋大学大学院医学系研究科 循環器内科学 坂東泰子、渡邊直樹、石井秀樹、奥村貴裕、室原豊明 株式会社デンソー
6	ラクオリア創薬の名古屋大学における 創薬研究への取り組み	ラクオリア創薬株式会社
7	安全性と高殺菌力を実現する新しい 殺菌消毒液の生成装置	日本ガイシ株式会社 新事業企画室
8	MALDI-MSによる皮膚表面の脂質分析	株式会社島津製作所
9	ニワトリの糖鎖制御と医薬品・ワクチン 生産への展開	名古屋大学大学院工学研究科 生命分子工学専攻 金岡英徳、飯島信司、西島謙一
10	非環状型人工核酸を活用した 次世代型核酸医薬の開発	名古屋大学大学院工学研究科 生命分子工学専攻 神谷由紀子、有吉純平、村山恵司、浅沼浩之
11	筋萎縮モデルの収縮力を指標とした薬剤評 価系の開発	名古屋大学大学院工学研究科 生命分子工学専攻清水一憲、 弦間里歩、後藤友規、長坂すみれ、本多裕之
12	名古屋大学発ベンチャーによる 生活習慣病の重症化予防支援	株式会社PREVENT 萩原悠太

座長 門松 健治 予防早期医療創成センター長

時間	タイトル	内容
14:00～ 14:30	アプリを使用した1対多のモバイルテレメディシン～小児外科医療の均てん化及び模擬集約化を目指した遠隔医療支援～ 名古屋大学医学部附属病院 小児がん治療センター 講師 檜 顕成	小児外科のメジャー疾患（食道閉鎖など）は日本全体でも1年に200件に満たない。小児外科疾患に対応する専門医の分散は、経験不足を引き起こし、診断治療レベルの低下さらには専門医としての情熱を奪いかねない。我々はモバイルテレメディシンで医療技術の共有及び標準化を目指す。
14:30～ 15:00	生活習慣情報と遺伝子多型によるがんリスク予測 愛知県がんセンター研究所 遺伝子医療研究部 部長 松尾 恵太郎	これまでに、がんリスク関連遺伝子多型や生活習慣が発見されて来た。しかし、これらを組合せてがんリスクを予測し、予防に役立てる試みは不十分である。我々は独自の大規模疫学研究に基づき、生活習慣情報と遺伝情報を組み合わせた日本人におけるがんリスク評価を行った。
15:00～ 15:30	先天性免疫不全症マスクリーニング 名古屋大学大学院医学系研究科 小児科学 教授 高橋 義行	重症複合免疫不全症（SCID）は致死的な先天性の免疫不全症であり、世界の一部の国で新生児マスクリーニングが開始され、早期診断・治療により死亡数の低下、患児のQOLの向上に貢献している。2017年4月に日本で初めて愛知県が名古屋大学小児科と協力して新生児を対象にSCID新生児マスクリーニングを開始した。
15:30～ 16:00	認知症の超早期治療に向けた新しい取り組み：Glocal & Bidirectional 名古屋大学大学院医学系研究科 神経内科 教授 勝野 雅央	アルツハイマー病やレビー小体型認知症などの認知症のメカニズムに関する研究が進んでいるが、認知症を発症した後では治療が難しいことも明らかとなりつつあり、予防治療が必要と考えられている。認知症を発症前に見つけて治療するための新しいコホート研究について紹介する。
16:00～	10分 小休止	

座長 本多 裕之 予防早期医療創成センター 教授

時間	タイトル	内容
14:00～ 14:30	自然言語処理と医療応用～IBM Watsonの事例を中心に～ 名古屋大学大学院情報学研究科 価値創造研究センター 教授 武田 浩一	医療分野ではこれまで文献からの知見獲得や、電子カルテ等の情報抽出を中心にして自然言語処理技術が利用されてきたが、最近ではIBM Watsonのような診断の支援となる情報提示手法が注目されている。本発表ではこれらの応用技術とその事例について紹介する。
14:30～ 15:00	画像認識技術によるCT/MRI画像の見える化システム 富士フイルムメディカル株式会社 ITソリューション事業本部 事業推進部 3D営業技術グループ 川口 裕之	富士フイルムメディカルでは、臨床画像であるCTやMRI画像から形態を認識して立体画像を構築する技術を用いて、診断支援/治療支援を行っている。臨床診断、手術プランニング支援など臨床画像が持つ情報を活用し、「見える化」がもたらす医療支援について紹介する。
15:00～ 15:30	人工知能による看護・診療記録の分析について 株式会社FRONTEOヘルスケア 研究開発部シニアリサーチャー 博士(数学) 豊柴 博義	人工知能に看護・診療記録などの自然文を学習させ、患者さんにみられる特徴抽出を行い、医療に役立てるシステムの開発を進めてきた。これまでおこなった転倒転落、疼痛・精神疾患などへの応用からみてきた人工知能の可能性や克服すべき課題について紹介したい。
15:30～ 16:00	医療AIと「倫理的に調和したデザイン」 東京大学大学院総合文化研究科 教養学部附属教養教育高度化機構 科学技術インタープリター養成部門 特任講師 江間 有沙	無線LANの標準化規格で知られる米国電気電子技術者協会（IEEE）は、2017年12月に「自律的で知的なシステム（A/IS）」に関するレポート「倫理的に調和したデザイン第二版」を公開した。A/ISには医療診断システムなども含まれる。本発表ではレポートを参照しながら、医療AIの倫理やガイドラインについて来場者とともに考えたい。
16:00～	10分 小休止	



座長 平田 仁 予防早期医療創成センター 教授		
時間	タイトル	内容
16:10～ 16:40	知覚・痛覚定量分析装置 （Pain Vision）とその臨床応用 東京大学 名誉教授 JR東京総合病院 名誉院長 花岡 一雄	痛みの程度を計測するVisual Analogue Scale (VAS)は、患者自身の中での変化に対しては威力を発揮してきたが、患者間での比較は不可能であった。数年前より、患者が感じている痛みを、痛みを伴わない異種感覚に置き換えて定量的に評価する知覚・痛覚定量分析装置（Pain Vision TM ）が臨床使用され、患者間でも痛みの程度を比較可能になった。今回は知覚・痛覚定量分析装置についてお話しする。
16:40～ 17:10	慢性疼痛治療薬の 臨床開発戦略と試験デザイン ファイザー株式会社医薬開発部門 ポートフォリオ・プロジェクト・マネジメント 部 プロジェクト・マネジメントグループ 部長 荒川明雄	近年、神経障害性疼痛、線維筋痛症、慢性腰痛症などの慢性疼痛に対する新薬開発が積極的に進められている。今回、慢性疼痛治療薬の臨床開発の進め方、臨床試験デザイン、評価方法を概説し、開発における留意点についても紹介する。
17:10～ 17:40	複合性局所疼痛症候群の 客観的診断技術の開発 名古屋大学予防早期医療創成センター・医学部手の外科 教授 平田 仁	複合性局所疼痛症候群は軽微な外傷をきっかけに発症する原因不明の疼痛性症候群であり、局所性の疼痛や感覚異常に加え、浮腫、発汗異常、血管運動性異常、異常運動など多彩な症状を呈する。我々は背景にある脳機能異常を評価し、客観的診断技術の確立を試みたので現状と展望を紹介する。
17:40～ 18:10	痒みと痛みの脳内認知機構 自然科学研究機構 生理学研究所 統合生理研究部門 教授 柿木 隆介	ヒトでの痛みと痒みの脳内認知機構を解析している。この2つの感覚の認知機構は似ているが、明らかに独立した感覚であることが明らかになってきた。特に、最近話題になっている「痒み」の認知メカニズムと、痒み独自の不思議な症候、そして新しい治療法について紹介したい。
小休止		
18:15～ 18:20	挨拶	財満 鎮明 理事 副総長 学術研究・産学官連携推進本部長



座長 吉田 安子 予防早期医療創成センター 特任教授		
時間	タイトル	内容
16:10～ 16:40	ヘルスケア分野の環境変化で 変わりつつある民間保険 株式会社インターリスク総研 リスクマネジメント第一部 健康・医療サービス開発室 金子 哲郎	人生100年時代、長寿がリスクと言われ始めた。リスクへの対処には公民共に保険という万一のための補償の仕組みがある。しかし、リスクが増大する昨今は財源問題からどのようにリスクを減らせるかが課題になる。すでに多くの地域や企業で健康づくりが進んでいるが、それに合わせ民間保険の考え方も徐々に変わってきている。
16:40～ 17:10	日本の美しい食文化を未来に 株式会社ミールケア 代表取締役 関 幸博	ミールケアでは、食は人を育む最も大切な要素と考え、全ての世代に向けた食育活動を展開している。四季折々の旬を知り食文化への理解と感心を深め、健やかな生活を育む食が次世代へと受け継がれていくことを目指している。全国約300ヶ所での給食受託事業を通し、培ったノウハウを生かした食生活の見直しを紹介する。
17:10～ 17:40	“健康無関心層”を動かす 女性だけの30分健康体操教室 カーブスの事例紹介 株式会社カーブスジャパン 常務執行役員 齋藤 光	「運動なんてめんどくさい」「今は元気だから大丈夫！」国民の約7割がこのような“健康無関心層”ということが分かっている（筑波大学大学院・久野研究室）。現在の日本が抱える医療費の増大を抑制するには、この“健康無関心層”をいかに運動参加に促すか。カーブスの会員の約7割も、元はこの“健康無関心層”。その方たちがなぜ運動を行うことになったのか、自治体とも連携した現在の活動を紹介する。
17:40～ 18:10	南医療生活協同組合の おたがいさまで長生きが 喜べるまちづくり 南医療生活協同組合 役員 副理事長 山口 義文	2011年度の総代会で確認された、南医療生協の考える良い医療・介護の4つの指標から本格的に始まった「おたがいさま運動」。「おたがいさま運動」からひろがるささえあい・たすけあい市民参加型のまちづくりと健康づくりについてお伝えする。
小休止・第1会場へ移動		

